



なごや環境大学

FOREST PROJECT Activity Report

2025 年度

活動報告書

森林プロジェクト

なごや環境大学

目次

はじめに.....	3
2025年度 なごや環境大学 森イキ！プロジェクトについて	4

01 山の社会見学

山を知る

山と木のお話とぎふの木でモノづくり.....	6
山の間伐作業とビフォーアフター.....	10
植樹祭！.....	14

山で遊ぶ

桜の染料づくり.....	18
染めてみよう.....	22

山の観察

花炭づくり.....	26
バードウォッチング.....	30

02 スキルアップ講座

森を知る方法.....	34
-------------	----



はじめに

森林環境譲与税の活用と「森イキ!プロジェクト」

2019年3月、「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」が成立・公布されました。森林環境譲与税は、市町村において間伐や人材育成、木材利用の促進、普及啓発といった「森林整備及びその促進に関する費用」に充てることとされています。

20周年の節目を超えて、さらなる未来へ

「なごや環境大学」は、2005年の「愛・地球博」とともに開講し、昨年度には20周年の大きな節目を迎えました。私たちは今、これまでの20年にわたる共育の歩みを糧に、持続可能な社会を支える新たな人づくり・人の輪づくりに向けて、「20周年、その先へ！」を掲げて未来へのさらなる一步を踏み出そうとしています。

2025年度「森イキ!プロジェクト」の展開

2025年度は、以下の2つの柱を中心に豊かな活動を展開いたしました。

山の社会見学

岐阜県美濃市・関市の山を舞台に、林業の現場体験や素材を活かしたクラフト体験を年間通じて実施しました。前期は木工クラフト、間伐現場の見学、植樹体験、桜の染料づくりなど、山の恵みを五感で学ぶプログラムを開催しました。後期は松ぼっくり等を用いた「花炭づくり」や中池公園での「バードウォッチング」など、自然の造形や生き物の暮らしに触れる体験を行いました。

スキルアップ講座

連携して活動する「岐阜県立森林文化アカデミー」から講師をお招きして、「なごやの森づくりパートナーシップ連絡会(名古屋市内でみどりの保全や再生に取り組んでいる団体と名古屋市が協力して設立)」等を対象に、毎木(まいぼく)調査のやり方と実習、毎木調査から読み取れることを考察する講座を開催いたしました。

「なごや環境大学」は、これからも市民・企業・教育機関・行政が立場や分野を超えて響きあうネットワークとして、森林整備の促進と、その先にある豊かな未来の創造につなげてまいります。

「なごや環境大学」実行委員会

なごや環境大学 森イキ！プロジェクトについて

01 山の社会見学



岐阜県美濃市・関市の山をフィールドに、山を知って、遊び、学ぶ講座。

山を知る

山のお仕事を知ろう

場所 ▶ 岐阜県美濃市・古城山ふれあいの森など

2025年5月10日(土) 山と木のお話ときふの木でコモノづくり
6月7日(土) 山の間伐作業ビフォーアフター
10月4日(土) 植樹祭！



山で遊ぶ

桜の小枝を拾って草木染

場所 ▶ 岐阜県美濃市・和紙の里わくわくファーム



STEP 1 桜の染料づくり

2025年9月7日(日)



STEP 2 染めてみよう

2025年9月21日(日)



プロジェクト
概要

森林での活動や知識・技術の学びを通じて、持続可能な社会づくりや人づくり・人の輪づくりを進めるなごや環境大学のプロジェクトです。名古屋市内や近郊の森で活動を続けている方々と一緒に、調査や整備活動を通じて森の重要性や課題解決に向けた取り組みを学び、体験しています。2025年度は、以下5つのプロジェクトで参加者を募り、講座や体験会を実施しました。



散策観察しながら集める

場所 ▶ 岐阜県美濃市・古城山ふれあいの森

花炭づくり

2025年12月7日(日)



山の観察

バードウォッチング

場所 ▶ 岐阜県関市・中池公園

2026年3月8日(日)



02 スキルアップ講座



森を知る
方法

場所 ▶ 戸田川緑地

2026年2月21日(土)



山の社会見学

森のお仕事を知ろう **STEP 1**
**山と木のお話ときふの木で
 コモノづくり**

2025年5月10日(土)



講師 長屋紀子、前場治佳子（中濃森林組合）、佐藤美也子（スタジオ 385）
場所 中濃森林組合／岐阜県美濃市



講師によるガイダンスでは日本の山と木の話聞き、「山を守るためにどうしたらいいのか？どのように木を活用できるのか？」と考えました。その後、それぞれのアイデアを活かし、木材に触れて木のモノづくりを行いました。

1. ガイダンス「山と木のおはなし」



世界各國の森林率
 (国土面積に占める森林面積の割合)

	フィンランド	73.1%
	日本	68.5%
	スウェーデン	68.4%
		世界平均は、31%



日本国内の森林率

- 1位 高知県 83.8%
- 2位 岐阜県 81.2%
- 3位 長野県 78.8%



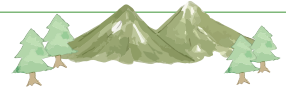
山と木の役割

■ 水をたくわえる



土の上にたまった落ち葉を微生物が分解するため、土は柔らかく小さな隙間がたくさんある。そのため、森林の土はスポンジのように多くの水をたくわえることができる。森林に降った雨は、ゆっくりと土の中を流れ、洪水の発生を防ぎ、川の水量を一定に保つ役割もある。このような森林の働きが「ダム」に似ているため、森林は「緑のダム」と呼ばれている。

■ 山くずれを防ぐ



山の木は、しっかり根を張って土や石を掴んでおり、土砂が崩れるのを防いでいる。山に草木が生えていないと、大雨の際に土が雨で削り取られたり、土が川に流れ出して災害が起きたりすることがある。

■ 木は再生できる資源



木材は、家や家具の材料になるだけでなく、紙の原料やバイオマス燃料としても利用でき、暮らしに欠かせない重要な資源。木は成長するまでに何十年とかかるが、木を伐った後に苗木を植えて育てることで、森林を再生し、資源を繰り返しつくり出すことができる。

■ 地球温暖化を防ぐ



人間が石炭や石油などの化石燃料をたくさん使うようになったため、二酸化炭素などの温室効果ガスが増え、地球温暖化が問題となっている。木は成長時に二酸化炭素を吸収するため、地球温暖化を防ぐ働きがある。また、二酸化炭素を吸収した木材で建物をつくることで炭素を固定できる。

■ 野生動物の住み家



森林には、クマ、シカ、サル、鳥、イノシシなどの野生動物や昆虫など様々な生き物が住んでいる。森林は動物と植物が食べ物などを通して関わり合い、森林の働きを支えている。

■ 人間に安らぎをもたらす



森林は、美しい景色、川のせせらぎや小鳥のさえずりなど人間に安らぎや気持ちの潤いを与えてくれる。森林浴やキャンプなどのレクリエーションの場として利用することもできる。

森林組合とは？

森林所有者が組合員となり、林業の発展を目指して組織されている協同組合

- ▶ 地域や組合員のために山づくり
- ▶ 木材、炭、特用林産物などの生産・販売
- ▶ 森林に関する情報提供や管理の相談
- ▶ 林道や作業道の作成、整備

主な仕事内容（フォレストワーカー、一般社員、嘱託、パートに分かれる）

作業道開設・設計、森林調査、間伐、植栽、ライフライン保全、登山道・遊歩道整備など



木材をふんだんに使っている

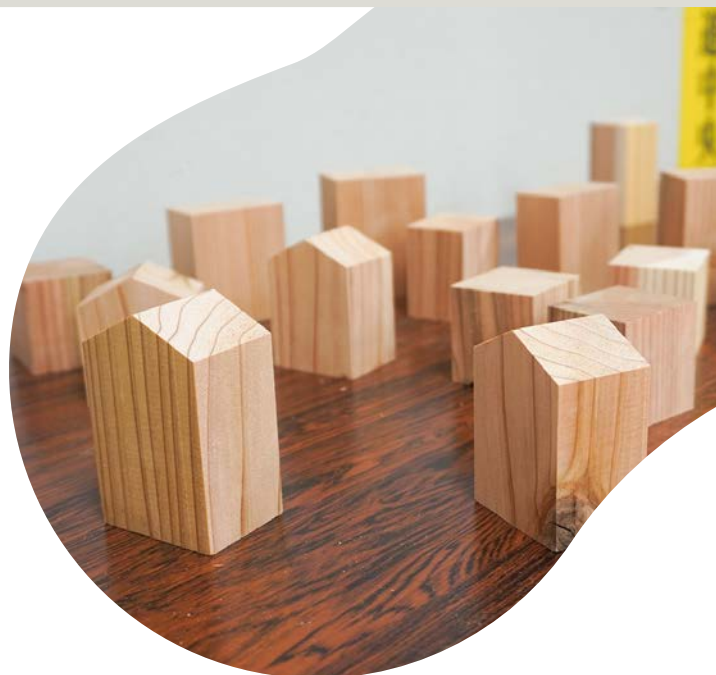
中濃森林組合を見学。

スリッパを脱いで木材の温かみを感じました。



2. ぎふの木でコモノづくり

住宅建材の梁の素材を使って、カードホルダー、ペンスタンドを作りました



スギの木の端材を選ぶ
木目や穴を開けやすい
方向などを解説



1



2

練習用の木材で、
手回しドリルを使って
穴を開ける



3



4

ノコギリの使い方を学び、
子どもたちも実践



5



6

紙やすりを使って、
150 → 220 → 320 → 400 番手
の順に磨く

ペンに紙やすりを巻いて、
バリを取ると仕上がりが
滑らかに



穴の深さや切り込みを入れて、
自分の理想のデザインに



3. 美濃「うだつの上がる町並み」を散策



重要伝統的建造物保存地区でもある「うだつの上がる町並み」は、美濃和紙を販売する紙商や紙原料商を中心に発展したエリアです。



「うだつ」とは屋根の両端にある防火壁で、火災の延焼を防ぐ役割があります。豪商が財産を守るために競って「うだつ」を上げました。財力のある商人しかうだつを上げられなかったため、「出世しない、生活が向上しない」という意味を持つことわざ「うだつが上がらない」の語源にもなりました。

現在は、歴史を感じる建物を活かしながら、紙の物販店やカフェなども立ち並ぶ観光地になっています。

山の社会見学

森のお仕事を知ろう STEP 2

山の間伐作業ビフォーアフター

2025年6月7日(土)

講師 前場治佳子(中濃森林組合)

場所 寺尾ヶ原千本桜付近の山/岐阜県関市



間伐前と後の山を体感してみよう。間伐とは?なぜ間伐をするのか? 山を散策しながら解説。間伐作業現場の見学も行いました。

1. 苗木を植栽したエリアを見学



見学先の山に向かって、千本桜の並木道(県道59号線沿い)を歩きました。道沿いにはサクラとイロハモミジなどが植えられています。



途中にある植樹をされたエリアを見学。白いカバーに覆われたのは苗木です。植栽してシカに食べられてないように白いカバーをかけて植栽されています。1ヘクタールあたり3000本の苗が植えられており、苗木の間隔は2.5m。距離が近く、混みいった間隔で植えることで木がまっすぐ伸びて良い木材がとれる森に育ちます。

2. 作業路に入り、皆伐したエリアへ



続いて、普段入ることはできない林道を進みます。山を削って道を作っており、岩盤が出ている場所も。非常に固い岩盤で道を作るのに、とても時間がかかったという解説も。



一般の人が立ち入ることのできない作業林にも特別に入らせてもらいました。斜面の中腹から向かいの山で行われている伐木作業を見学。作業をする中濃森林組合の皆さんに手を振りました。伐木作業を見学しながら、中濃森林組合の仕事内容についても解説。7班ある中濃森林組合は、5年未満の人が所属する新人チームが安全に作業できるよう時間をかけて育成しています。



今回の伐木作業で、伐倒したスギの木は約22m。大きなスギが切り倒される瞬間には大きな音が響き渡りました。途中で木が折れてしまったため、根本は建材に、折れた先はパルプになるそうです。



3. 伐木作業と重機を見学



伐木作業が行われていた向かいの山へ移動しました。たくさん積まれた丸太の切り口には数字が書かれています。これは丸太の切り口の直径です。11～19cmの物は十の位が省略されています。



伐木を行う際に使用する重機も見学しました。グラップルを使って木材を2本伐る作業では、グラップルで支えてゆっくり倒す様子を見ることができました。フォワーダーという伐採された木材を運ぶ重機も。





伐木が終わってから、周囲の安全を確認し、切り株や重機を近くで見せてもらいました。伐ったヒノキの切り株の表面に触れると水分を吸っていることが確認できます。夏季の樹木は水を多く含んでいるため、切り株の断面がしっとりしています。



- 皆伐** 全部を伐る
- 間伐** 間引きをする、林が明るくなる、劣勢木を伐る
- 切り捨て間伐** 木材を林内に放置して山の栄養にする



今回の講座では、山の間伐が進んでいるエリアと間伐していないエリアの明るさを比較することができました。最後は伐木作業を終えた中濃森林組合の皆さんに質問タイム。山の木材を育てて伐り、森の恵みを活かしながら地産地消をしていることが分かりました。

山の社会見学

森のお仕事を知ろう STEP 3

植樹祭！

2025年10月4日(土)

講師 前場治佳子（中濃森林組合）

場所 洞戸地区の山／岐阜県関市



第1回のコモノづくり、第2回の間伐作業を経て、「山のお仕事を知る」シリーズ講座の第3回。植樹体験を通じて、山の成り立ちや環境を知り、山をつくるお手伝いをします。

1. 以前に苗木を植樹したエリアを見学



当日は残念ながら雨模様。この雨の中で作業は難しいと判断して、すでに植樹された場所（岐阜県関市洞戸高見地区）を見学することにしました。





植樹された土地は元々はスギが植えられており、とても暗い林になっていたそうです。また、スギは枝が落ちるので道路に危険が及ぶ可能性があったため、スギの木を伐木し、材木として活用されました。



再造林するべく、2023年11月に植樹されました。世話が少なく済み、背が高くない樹種としてコナラを植えました。葉をシカに食べられないように保護カバーに覆われています。



カバーは農業用支柱（イボ竹）に針金と不織布とクリップで支えています。不織布（生分解性）なので植物は呼吸もでき、光も届くメリットも。木を上へ伸ばし、背丈を出す効果も。

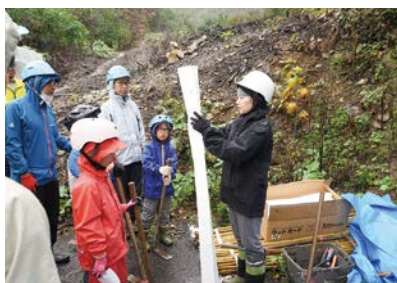
下草刈りをされた土地は、草をそのまま放置して栄養にしています。苗の成長にも差があり、同じ土地で同じように育てても結果が変わることが確認できました。



2. 山に入り、皆伐したエリアへ



午後は小雨になったので植樹する山へ移動。本来は参加者全員で40本植える予定でしたが、雨の中の作業のため1人1本を目指しました。林業は一日70本植えるのが平均。昔は保護カバーが不要だったため、もっとたくさん植えていたという解説も。



植樹に必要なもの

- ・コンテナ苗、ヒノキ
- ・竹の支柱
- ・カバー（生分解性、9cm角）※上の折り目から四方に剥けて生分解するタイプ
- ・クワ
- ・トンカチ

植樹をする際は、決められた間隔を開けます。今回、苗木と苗木の距離は2.6mに。それぞれで測定して場所決めを行います。

植え方



1 クワで穴を掘って土を入れる



2 苗を植える。苗を引っ張っても
抜けない程度に土を踏み固める



3 支柱を1本刺して、カバーの高さに
合うまでトンカチで打ち込む



4 支柱を外側に添わせて、
苗木にカバーを被せる



5 もう一本の支柱を刺して打ち込む



6 結束バンドでカバーと
支柱を固定する

7 木が伸びたときに葉が広がるように、
カバーの一番上を外側に折ったら完成



今回は、合計で10本植えました！実際に参加者自身で植樹をし、山をつくる仕事の大変さと重要性を実感。人の手を加えないと健全な森や林は維持が難しい、ということも学びました。

山の社会見学

山で遊ぶ STEP 1

桜の染料づくり

2025年9月7日(日)

講師 ▶ 前場治佳子（中濃森林組合）、長屋紀子、佐藤美也子（スタジオ 385）

場所 ▶ 和紙の里わくわくファーム／岐阜県美濃市



サクラ並木を散策して、草木染めの染料にするサクラの小枝を集めます。集めた小枝を煮出して染料を作ります。

1. 染料となるサクラの小枝を集める



今回はソメイヨシノを使って、草木染めの染料を作ります。本来、サクラの染料は葉を使うことが多いですが、量がたくさん必要となるため木の枝から染料を作ります。



美濃市の許可を得て、ソメイヨシノの枝を伐採しました。今回、伐採が許可されたのはサクラの木の高齢化と病気のためです。サクラの寿命は60～70年と言われており、高齢化が進むと抵抗力がなくなり病気になってしまうそうです。



サクラは黄色とピンクの染料が作れますが、今回はピンク色に染めます。同じサクラであってもソメイヨシノ、ヤマザクラ、シダレザクラなど樹種によって色が変わります。ソメイヨシノは鮮やかに発色するのが特徴です。



ソメイヨシノは、日本で多く流通する樹種でバラ科の植物。葉がギザギザしているのはバラ科の特徴です。葉の根本には、1つか2つの蜜線があります。



染料の素材は、染める布の3倍の重量が必要です。300gの布なので1kgの枝を集めます。グループごとに剪定ハサミと袋を手にして枝を集めます。枝についている葉を落として、剪定ハサミで枝を切り落としました。



2. サクラの小枝を使って染料づくり

枝を採取した後は、3班に分かれて染料づくりをします。伐採した枝をさらに細かく分けて、作業スタート！



染め見本

(左が染めたての色・2回染め、右が一年経過したもの)



1 サクラの枝を洗う

枝をスポンジでこすって、表面の汚れを取り除く



2 枝を3cmほどに切る 花がつく枝先はピンク色に染まる、根本は黄色くなる



3 重さを測り、枝を袋に入れる 300gの袋を3つ作る



4 枝を煮出す（前処理）

鍋に入れて、袋が浸るくらいまで水を入れる。火にかけて煮出したら、枝が入った袋を取り出して鍋の湯を捨てる（色が薄いため）



5 重曹を入れて、再び枝を煮出す

水1ℓに対して重曹は1g入れる。もう一度、鍋を火に掛けて弱火で30分



6 染料をボウルに入れて冷まし、ペットボトルに入れる

完成した染料は、ペットボトルに入れて自宅に持ち帰って冷蔵庫で保管する

染める布の下処理について

- ・布を中性洗剤で洗って乾かす
- ・豆乳（または牛乳）と水を1対1でボウルに入れる
- ・布をボウルに入れて漬け込む
- ・30分ほど経ったらボウルから布を取り出す
- ・水気を取り、乾燥させる（水ですすぎない）
- ・布が痛むので絞らない（脱水にかけると良い）



今回は、自然の恵みをいただいて染料を作りました。染料が出来上がった後は、染める生地の下処理についての説明がありました。次回のSTEP 2では、今回の染料と下処理をした生地を持参して草木染めをします。

山の社会見学

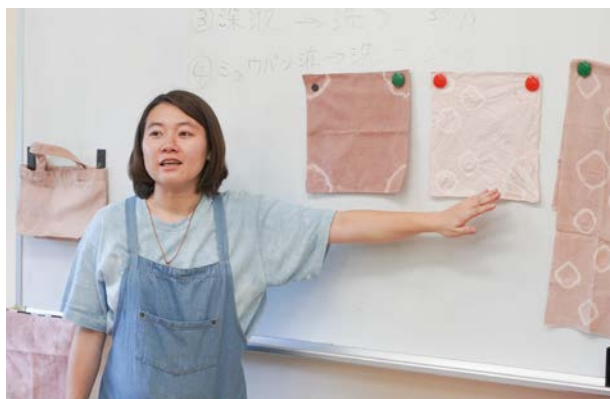
山で遊ぶ STEP 2

染めてみよう

2025年9月21日(日)

講師 ▶ 前場治佳子（中濃森林組合）、長屋紀子、佐藤美也子（スタジオ 385）

場所 ▶ 和紙の里わくわくファーム／岐阜県美濃市



STEP1 で作ったサクラの染料を使って草木染めをします。

1. 道具を使って、草木染めの模様を作る



前回は作った染料を持参して、実際に草木染めを行います。工程は模様をつくることからスタートです。道具を使って染まる部分と染まらない部分を作ることによって独自の模様が生まれます。道具によって出来る模様が異なるため、みなさん想像力を働かせながら手を動かしていきます。



道具

割り箸、輪ゴム、ビー玉（大・小）、洗濯バサミ、黒い糸など



菱形はビー玉でつくった模様



どんな模様になるのかな？

2. サクラの染料で布を染める



1



鍋に染色液を入れて、60度まで温める

2

60度以上に温度を上げると布が痛むので注意



鍋の染料の中に布を沈める

3

液の中に布をしっかりと沈めるのがポイント



布の分量からミョウバンの量を測って、お湯で溶かし、媒染液を作る

4

染める布の重さの8%の分量のミョウバンを入れる

今回は、自ら作った染料を使って、草木染めを行いました。サクラの他にも、草木染めで使える身近な材料も紹介。草木染めは化学繊維よりも手間がかかり、色持ちはしないけれど自然な優しい風合いが楽しめます。今回も自然に触れる良い機会となりました。

3. 染色は3セットにわたって、しっかりと




しっかりと染めるために複数回にわたって染めの工程を行います。2セットでも十分染まりますが、今回は3セット行いました



1セット

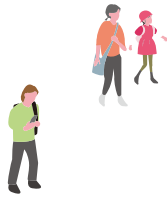
染液（60度）に30分つける→水で洗う
ミョウバン液に20分つける→水で洗う

この工程を3回繰り返す

 洗濯バサミやピー玉などの道具は最後まで外さないこと！



水でよく洗い、道具を外したら模様が現れました！
脱水して乾かしたら完成です。



みんなで干して、どんな道具を使って柄を作ったのかを発表しました。

草木染めに使える身近な材料

- | | |
|-----------|----------------------|
| ● 黄色、オレンジ | みかんの皮、玉ねぎの皮、ターメリックなど |
| ● 黄緑、緑 | ヨモギ、ヒノキ、スギ、笹、落葉した葉など |
| ● 青系 | ナス、紫キャベツ、藍など |
| ● ピンク、紫 | 赤しそ、黒豆、サクラの枝、びわの葉など |
| ● 茶色 | コーヒー、紅茶、栗（渋皮、イガ）など |



山の社会見学

山で遊ぶ
“花炭”づくり

2025年12月7日(日)



講師 ▶ 前場治佳子（中濃森林組合）、長屋紀子、佐藤美也子（スタジオ 385）

場所 ▶ 古城山ふれあいの森／岐阜県美濃市



いろんな植物を炭にしてみよう！飾ったり消臭剤にできる、かわいくて役に立つ「花炭」。今回は、マツボックリやドングリ、葉っぱなど集めて作ります。

1. 森を散策して、炭の材料を集める



「花炭」は、自然物を炭化させ、植物の形がそのままの炭づくりをしたものです。昔から茶道などで観賞用としておもてなしに用いられていました。玄関などに飾ると消臭効果もあります。

今回は散策して森を観察しながら、マツボックリやドングリ、葉などを集めて花炭づくりにチャレンジします。



準備運動をしてから森に入ります。枝や木の実、葉などを拾う際は、山から少し分けてもらう気持ちで採取します。



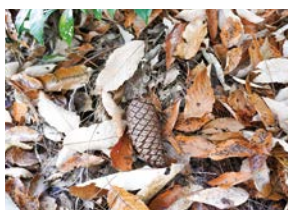
アラカシの木の下で
ドングリ拾い



アカマツも採取。シカ、ウサギによって樹皮が剥がされている様子も観察



サルトリイバラを観察。岐阜で一般的に食べられている麩まんじゅうに葉っぱが使われる。ツルも炭になる。ツルには棘があるので注意しながら採取。



外国産の樹木であるスラッシュマツ。20-30mと背が高く、マツボックリは棘があり大きい。リスやネズミがタネを運ぶこともある。タネの飛ぶ距離が遠いため木の下の実生は少ない。



リスがマツボックリを食べた後の残骸、
通称「森のエビフライ」も発見！

2. 火を焚いて、花炭づくり

材料を採取した後は、5つのグループに分かれて花炭づくりを始めます。



- 1** 森で採取したものを新聞紙に広げて選別する



- 2** 缶に入れて、レンガの上に乗せる

自宅から持ってきた南天やハスの実、ひょうたんを入れる家族も



- 3** 新聞紙と薪で火を起こす

箱にしっかり火があたるようにレンガは端に設置



- 4** 代わる代わる火の番をする



- 5** 缶穴から出る煙の色が変化する

黄色くなってから青っぽい煙になる。煙がおさまりかけたら火から外す



6 穴に棒を差してふさいで5分ほど置く

すぐ蓋を開けると高温なので火が上がるので注意



7 缶の溝がヤニで埋まっているので剥がしながら開けたら完成!



今回は、森に入って自ら植物を採取し、花炭を作りました。2時間ほど火にかけるため、火の番をしている合間には、薪窯でピザを焼いたり、樹木の種類を確認したり、思い思いの時間を過ごしました。どのグループも花炭は大成功。特に常緑の葉はきれいに形が残った状態で炭になっていました。マツの枝などもしっかり炭化していました。

山の社会見学

山の観察
バードウォッチング

2026年3月8日(日)

講師 島崎乃野子 (カケス舎)

場所 中池公園 / 岐阜県関市



中池公園を散歩しながら、小鳥の観察をします。耳をすまして、鳥たちの声を聞いてみましょう。

1. バードウォッチングの準備

カモなどの渡り鳥が日本にやってくる冬季は鳥を観察するのに最適なシーズン。木が落葉しているので鳥たちが見やすいです。散策の前に、バードウォッチングの準備運動からスタートです。



耳の準備体操



目視だけではなく、耳もフル活用しながら鳥の姿を探してほしい

体験

目を閉じて30秒、何種類の音が聞こえるか？
テニス、クルマ、鳥の鳴き声など5～10種類



双眼鏡の使い方



- 1 : 鳥を目視
 - 2 : 双眼鏡を向ける
 - 3 : 見たいものに合わせてピントを調整
- ⚠️ 太陽は見てはいけない、人をじっと見ない

2. 池の周りを散策



水辺で餌を食べている
コガモ



- ・オス・メスで色が違う、オスは頭がレンガ色で目の周りが緑色
- ・今日の散策で見える鳥が「コガモより大きいのかどうか」で見ると良い



オスとメスで色が異なる
ヨシガモ



- ・なかなか見かけない珍しい鳥（写真奥 オス・手前 メス）
- ・頭がカラフルな構造色、襟足が長い、通称「ナポレオンハット」



観察したカモの仲間たち

- ・オカヨシガモ
- ・ヒドリガモ
- ・ハシビロガモ



3. まちなかで見かける鳥たち



ハクセキレイ

- ・足が速い、水辺の鳥だが街中でも見かける
適応力の高い鳥



アオサギ

- ・立つと 1m ほどの国内でも有数の大きい鳥
- ・集団で繁殖地をつくる、通称「サギ山」
- ・水辺の鳥だが巣は木の上、体が軽いので細い枝の上でも巣が作れる



カルガモ

- ・国内で年中見られる身近な存在



トビ

- ・翼の肩に白い模様、バチのような形状の尾が特徴
- ・鳴き声は「ぴ〜ひょろろ」

4. 鳥の見分け方 3つのポイント



1 大きさ



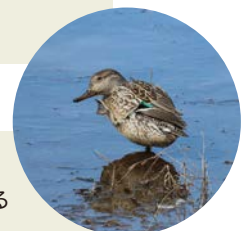
まちなかでよく見る鳥と比較すると良い
モノサシ鳥＝ハト、カモ、カラス

2 飛び方

セキレイ＝波状飛行 トビ＝旋回

3 クチバシの形状

鳥の生態とリンクしている
カモ＝平たい、サギ＝先が曲がっている

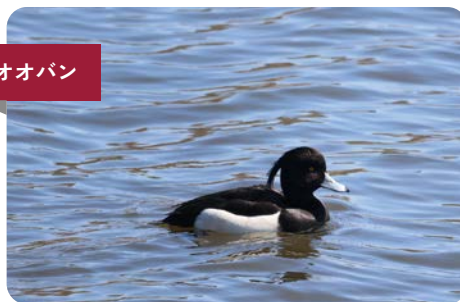


5. 池や森で観察した鳥たち

コブハクチョウ



オオバン



キンクロハジロ



ジョウビタキ



・カモに似ているが、クイナ科

・紋付袴のような模様がある、別名「モンツキ」
 ・「ヒッヒッ」と高い鳴き声
 ・縄張り意識が強く、目立つ場所の先にとまることが多い



今回の散策で見つけた鳥たちをイラストに描きながら振り返りました。2時間ほどの散策でコブハジロ、カイツブリ、ダイサギ、ノスリ、ヒヨドリなども観察。池の周りだけでなく、音に耳を澄ませながら山側も歩きました。鳥たち鳴き声も含めると25種を確認。生活の中にある身近な鳥に心を寄せるきっかけとなりました。



昼食後は、岐阜県博物館に移動。岐阜の地域に生息する鳥の剥製も展示されていました。アロサウルス、ステゴサウルスの骨格標本（複製）なども展示されていました。



スキルアップ講座

森林の調査法

2026年2月21日(土)

講師 岐阜県立森林文化アカデミー教授 柳沢 直

場所 戸田川緑地／名古屋市港区春田町

岐阜県立森林文化アカデミー
柳沢直教授

今回は森林の調査目的などを考え、戸田川緑地の森で実際に調査を行いました。
調査結果についても皆さんと検証しました。

戸田川緑地は「健康とスポーツの里」をテーマに整備が進められた、名古屋市南西部の公園です。戸田川の両岸に南北約2.5kmにわたり広がっており防災拠点も兼ねています。2000年から森づくりがスタートし、企業と行政、市民で植樹をした森が広がっています。現在は戸田川みどりの夢くらぶを中心に、植樹から「育樹」へ移行した森林保全活動が続いています。



2000年当時のパノラマ写真と

25年以上経った森を比較

調査の目的とは

森林調査を計画する前に目的を考えることが必要。調査の目的が決まっていれば、自ずと調査方法も定まってくる。

調査目的の例

- ① 記録を残す
- ② 絶滅危惧種の保全に役立てる
- ③ 林の管理に役立てる
- ④ 生業のため





調査方法	調査の目的に合わせて、調査項目、調査日、調査場所、調査枠の数と大きさなどを決める
調査項目の例	樹木の種類、大きさ（直径・高さ）、階層、樹齢、芽生えの有無と数、立地（斜面方位や斜面傾斜、地質、林内の明るさ）など
調査日の例	調査しやすい時期（着葉期）、季節ごとに調査、毎週調査など
調査場所	<ul style="list-style-type: none">・ 調査目的に適う場所か （目的の生物はいるか、典型的な場所であるか など）・ 調査枠は周囲の植生を代表できる大きさか・ いくつかの環境を含んでいる など



ナンバーテープを巻き、個体番号を付ける



調査結果は、表に記載してまとめる



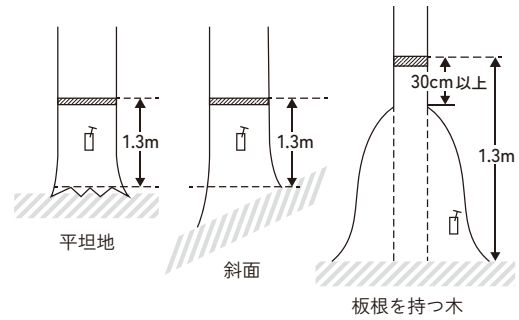
樹高計を用いて、木の高さの計測を行う様子



今回の調査目的

- ・ 2000年に植栽された林の現状を記録し、今後の林の状態を予測する
- ・ 毎木調査
- ・ 種名、胸高直径、樹高、階層、立木位置などを測定

胸高直径 (DBH) 測定方法



階層について

自然林に生育する樹木は何層かの階層を形成している



- ← 高木層 樹冠が最上層に出ている層
- ← 亜高木層 高木層に樹冠が接している樹木個体でつくられる階層
- ← 低木1 亜高木層に樹冠が接していない樹木個体でつくられる階層
- ← 低木2 50cm(膝上)から2~3m(背の届かない高さ)までの階層
- ← 草本層 概ね50cm以下の層(「草本」層だが樹木も含む)

今回の調査枠

自然林に生育する樹木は何層かの階層を形成している

A1	B
A2	

- ・ A1, A2, Bともに5m×5mの大きさ
- ・ A1, A2は丘の頂部、Bは斜面下部、いずれも平坦面に位置する
- ・ A1, A2付近の樹木の樹高は概ね10.4m

A1はアベマキ林、明るい林
 A2はアベマキ林にアラカシが混交、明るい林
 Bはコナラ林、暗い林



時には草本層の調査をすることも。
 ドングリが芽を出す様子を観察

今回の調査結果

胸高断面積合計 (cm³) **A**

種名	高木層	亜高木層	低木 1 層	低木 2 層	合計	割合 (%)
アベマキ	804.7		54.3	0.2	859.2	47.6
ムクノキ		664.4	96.8	0.4	761.6	42.2
アラカシ	118.8				118.8	6.6
ヤマザクラ			33.2		33.2	1.8
コナラ		22.1	5.9	3.1	31.1	1.7
カマツカ				2.1	2.1	0.1
シャリンバイ				0.2	0.2	0.01
エノキ						
ネズミモチ						
合計	923.5	686.5	190.2	6.0	1806.2	100.0

幹数合計 (本) **A**

種名	高木層	亜高木層	低木 1 層	低木 2 層	合計	割合 (%)
ムクノキ			1	4	9	25.5
アベマキ	3	4	3	1	7	20.0
エノキ				5	5	14.3
カマツカ				5	5	14.3
コナラ		1	2	1	4	11.4
ヤマザクラ			1	1	2	5.7
アラカシ	1				1	2.9
シャリンバイ				1	1	2.9
ネズミモチ				1	1	2.9
合計	4	5	7	19	35	100

A1, A2
結果を分析



- ・アベマキが高木層で優占するアベマキ林だが、一部アラカシが混交している
- ・ムクノキは亜高木層を占めているが高木層まで出られていない
- ・コナラはアベマキと同じく高木性樹種だが、苗が小さかったか、立地が合っていないため、高木層に抜けることができていない。低木層のコナラはこれから光を受けられず衰退すると予想される
- ・高木層、亜高木層を落葉樹が占めており、林内が明るいため、低木層に落葉樹が生育できる余地がある。多様性が高い林になっている

胸高断面積合計 (cm³) **B**

種名	高木層	亜高木層	低木 1 層	低木 2 層	合計	割合 (%)
コナラ	1128.15				1128.2	56.2
アラカシ		867.82		11.15	878.97	43.8
ナンテン					0	0
合計	1128.15	867.82		11.15	2007.12	100

幹数合計 (本) **B**

種名	高木層	亜高木層	低木 1 層	低木 2 層	合計	割合 (%)
アラカシ		5		7	12	92.3
コナラ	1				1	7.7
ナンテン				1	1	7.7
合計	1	5		8	13	100

B
結果を分析



- ・コナラが高木層を占めているが、亜高木層以下はアラカシが占めている
- ・コナラが枯れたあとはアラカシの林になる
- ・低木 1 層に樹木がない。亜高木層の常緑樹であるアラカシが林内を暗くしているため、多様性が低い





FOREST PROJECT

Activity Report





2025





なごや環境大学 森イキ！プロジェクト 2025年度活動報告書

なごや環境大学 森イキ！プロジェクトチーム

2026年3月発行

編集・発行「なごや環境大学」実行委員会

〒460-0008

愛知県名古屋市中区一丁目23番13号

伏見ライフプラザ13階

TEL 052-223-1223



<https://www.n-kd.jp/>

